

母の祖国で学んだこと

喜多方市立第二中学校 三年 大塚 怜佳

私は母に「自分の気持ちをはっきり言いなさい」とよく言われる。自分の考えや意思をはっきりもち、あいまいな態度をとってはいけなと言われるのだ。母は愛情深く、穏やかな人なので、時としてきつく聞こえるその言葉は普段の母とのギャップを感じてしまう。私は中学になってから母の祖国であるフィリピンにひと月滞在したことがある。たくさんの人に触れることで母の根底にある優しさで自分で考え意思表示をすることの大切さを理解できた気がする。クリスマスだったこともあり、私もグミやお菓子、カップセルトイでとったキーホルダーなどを準備していった。いとこたちにそれをあげると驚くほど喜んでくれた。たくさんものを持ちこれといって欲しい物もない私は、素直に喜ぶいとこ達を見て、小さな幸せを感じられる心の豊かさを感じた気がした。フィリピンは経済的には日本ほど豊かではない。建物も丈夫そうではないし裸足の人も多く、身につけている物も粗末だった。しかし、ちょっとしたことに喜びを感じられるというのは、うらやましく、心の豊かさや、本当の豊かさとは何かということについて考えさせられた。

また、いとこ達はとても積極的で初めて会う私に言葉は通じなくても、一生懸命話しかけてくれ、私と仲良くなろうとしてくれた。

言葉がわからないからとか、知らない人だからと理由を探して、私は話しかけられることを待ただけだった。日本にいたら、私のような態度をとることが普通だと思う。授業中も目立ちたくないし、人と違うことをすることはそれだけで不安になる。「みんながそうしているから」という理由でやりたいことを我慢することがあるし、自分の意思に反して同調することもある。非難されたり、人から何か言われたりされないことはわかっていたとしても、みんなと同じことをしていれば安心できるのだ。また、協調という言葉の元、人と違ったことをする人は秩序を乱すと言われることもある。しかし、私の接したフィリピンの人たちは自分の意思を大切にし、楽しんだり、行動したりする。周囲の人はそれを尊重するし、画一的であることを美徳とは考えないようだ。クリスマスのイベントでもそれぞれが思い思いに楽しんでいた。

私の周りの人は、私を含めて他の人の行動をまず見て、その後自分が動くことが多いように思う。誰も「ファーストペンギン」にはなりたくないのだ。以前読んだ本に沈んでいく船から一刻も早く海に飛び込んで逃げなければならぬ時、船長はドイツ人には「規則だから飛び込め」と言い、日本人には「みんな飛び込んだ」と言えがいいというのがあったことを思い出した。国民性を著したものだだったが、私もみんながそうしたと聞けば不安なく海に飛び込むだろう。

私はAIをよく利用する。チャットGPTは私の質問に瞬時にして答えてくれ、勉強や生活を助けてくれる。しかし、私は自分の行動が、自分で考えることをAIに任せ、放棄してしまっていると感じている。そのことはとても危険だとも思っている。AIに頼らず、自分で考えることと、自分の意思で行動している人たちを見て、そうすることの重要性に、

私はフィリピンの滞在で気づいた。

私は二つの国にルーツをもっていることを誇りに思う。日本人は誠実で親切だといわれる。フィリピンに行ったことで日本人の良さを再認識し、フィリピンの人の優しさや大らかさ、明るさや物を大切にすることを感ずることができた。同時に、私自身が自分の意思で行動するという、自分に足りない点を知ることができた。

以前、先生に「知る世界の広さが、人生の可能性の広さだ」と、ある本の一節を教えてくださいいただいたことがある。フィリピンに行くことで私の知る世界は広がった。これは私の人生の可能性も広がったということだ。私は高校卒業後、フィリピンで両親とともに日本の食を広めるという仕事をしたいと考えている。私はこの素晴らしい二つの国の架け橋になりたい。自分の可能性を考えると今からワクワクしている。そこで大切なのは自分で考えて行動すること、時としてきつく受け取られるかもしれないが、それを恐れず、意思をはっきりと伝えることだ。そのために私は今、AIに頼るのではなく自分で考え、自分の意思で行動することを心がけている。そして、少しずつフィリピンの言葉を学んでいる。